

福山大学 自然災害対応マニュアル A改訂

2024年6月12日 改訂

福山で大地震は発生しない？

備後地域にも被害が及ぶマグニチュード9クラスの南海トラフ地震発生が予測されています。地震が発生した時に自分の命を守り他の人を助けるには事前の備えが必要です。また大学には工作機械などの重量物、実験機器や薬品など危険なものが多数あります。地震は、いつでも発生するものと認識して備えを整え、いざ地震が発生したら**他人に頼らず自分の頭で考えて、命を守りましょう！**



備後地域でも地震に備える

① 日本中どこでも大地震は発生

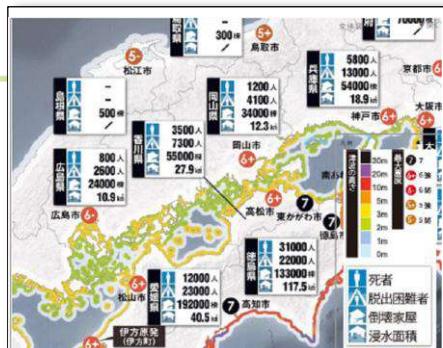
熊本大地震では直下の活断層が初めて判明しました。また2024年1月1日の能登半島地震は活断層が上下に動き阪神淡路大震災を越えるマグニチュードで地形を変えてしまいました。日本は活断層の上にあり、大地震は日本のどこでも発生します。これまで地震が少ない地域こそ地震リスクが大きいと言えます。

② 南海トラフ地震発生予測

朝日新聞と関西学院大学の共同調査では、備後地域に被害が及ぶ南海トラフ大地震は、今後30年以内に80~90%の確率で発生すると予測しています。皆さんのお子さんの世代までに発生します、明日かも！

③ 福山での被害想定

2012年3月の予想最悪値が右です。震度6、多数の死者、福山に高さ3mの津波が来ます。



南海トラフ地震の被害想定

https://www.asahi.com/special/nankai_trough/

自然災害防災は今やる！

自然災害に対する4つの備えをチェック！

いざという時、自分や大切な人を守るのは、一つの知識、一つの物、一言のコミュニケーションかもしれません。

◆ 物の備えをしていますか？

災害時には、水、食料が命を守ります。2018年夏の豪雨で経験した在宅避難で生き延びる備えをしましょう。 ⇒2ページ

◆ 室内の備えをしていますか？

建物は倒壊しなくても大きく揺れます。家具の下敷き防止、ガラス飛散対策、通路確保や防火対策が大切です。 ⇒2ページ

◆ 室外の備えはできていますか？

大学から自宅へ歩いて帰る経路の状況、また自宅から避難所へ安全に行けるか、事前に歩いてみるのも重要です。 ⇒2ページ

◆ コミュニケーションの備えを確認していますか？

災害で電話がつながらない時の家族や友人との連絡や情報収集方法は知っておくべきです。また住んでいる地域で避難する際には、ご近所どうしの協力が必要となります。 ⇒11ページ



福山大学安否確認システム

震度5弱の地震など災害発生時に学生と教職員の確実な安否確認を行うため、Formsのアンケート機能を使った「安否確認システム」があります。以下に示すステップのとおり、確実なアンケート送信による安否確認をお願いします。

①年度当初にゼルコバでメールアドレス設定

学生・教職員に毎年1回義務づけられている「情報セキュリティ自己点検」の一環としても行うものです。年度初めに全員がメールアドレスを登録することで安否確認システムが機能します。

②登録されたメールアドレスに福山大学ゼルコバメールが一斉に発信される

自然災害が発生すると、大学からゼルコバを通じて安否確認一斉メールが発信されます。

③メールの受信と安否状況の入力・送信

メールを受信したら、メール記載のURLから回答画面にアクセスしてFormsの質問に対する回答を入力、必ず送信してください！

大地震が発生したら…

発生直後（最初の数秒）

部屋からあわてて外に出ようとしている。危険な家具や器具などから離れて、丈夫な机の下などで身の安全を図ります。また閉じ込められ防止として窓や扉を開けて出口を確保します。屋外では、うずくまって揺れがおさまるのを待ちます。

揺れがおさまったら（2～3分）

落ち着いて火を止め、電気のブレーカも落とします。周辺の人の無事を確認し、緊急避難場所や在留可能な部屋へ避難します。その際エレベータは使わないこと。



転倒した書棚

避難したら（5～10分）

ニュース情報や大学からの指示を理解し、在留可能な部屋または屋外の安全な場所に避難したら、パニックや二次災害を防ぐように落ち着きましょう。

安全に気をつけて消火や救助の支援（1～数時間）

大地震発生時は公共の救助到着は遅れがちになります。自分の安全が確保できる範囲で、周囲の消火や救助活動などを手伝いましょう。



散乱した実験室（筑波大学）

家族や友人、大学との連絡（1日程度以内）

あらかじめ決めておいた方法（11ページ参照）などによりお互い連絡をします。大学には安否確認システムにより居場所やけがの状態などを必ず連絡してください。

講義中や実験中だったら…

書棚などから離れ、机の下などで身の安全を守ります。実験機器や薬品などを使用している場合はすぐに離れて揺れがおさまってから始末します。今いる部屋が在留可能な場合、揺れがおさまってから近くの在留可能な部屋へ避難します。



大阪北部地震で倒壊した高槻市小学校のブロック塀

学内の避難

大人数で出口や階段に殺到することは危険です。学内では、落ち着いて自ら考えて最も安全な方法で避難してください。建物ごとに「在留可能な部屋」が今後、指定されます。在留可能な部屋からはむやみに移動する必要はありません。

通学途中や駅にいたら…

ブロック塀や自動販売機、ビルのガラスなど危険物から離れて、頭を守りながら近くの緊急避難場所へ移動する。駅ホームでは転落しないよう近くの柱に移動する。

電車やバスに乗っていたら…

緊急停止するので倒れないように何かにつかまり踏ん張る。揺れがおさまったら落ち着いて乗務員の指示に従います。勝手にドアを開けて外に出ないこと。

備えを整える！

物を備える

備えるべき品目は自分に合う物を考えます。常備薬やメガネのスペアなど、どうしても必要なものをまず準備しましょう。ライフラインが途絶しても自宅で生活するために必要な、食料や水（3日分以上）など減災グッズを準備することが理想です。従来の備蓄は、普段使わない食料やヘッドライトなど特別な準備が必要で継続が困難でした。しかし日常利用している食料や生活品を少し多めに購入して状態をキープする「日常備蓄」なら簡単に実行できます。

室内の備え 地震による負傷者の30～50%は家具類の転倒・落下・移動が原因！

部屋に物を置かないことが最大の防御で次に下敷きにならない様に家具を配置する。更に器具を使って転倒・落下・移動防止対策を行ってリスクを下げましょう。部屋を借りる時は、耐震性を確認してください。また自宅が1981年5月31日以前に建てた古い家、増築を2回以上している家、大きな吹き抜けがあったり、一面が窓になっている壁があったり、L字型、T字型など凹凸のある造りの家などに該当する場合は専門家による耐震診断を受けましょう。

室外の備え 避難所と避難経路、大学からの帰宅方法を確認

大学や自宅の周辺の地形や地質、山間地や河川の近くなど危険度、過去の自然災害被害と対策を知ることは重要です。福山市は地震、津波、水害などのハザードマップを公表しています。また自宅付近の一時集合場所、避難場所、避難所を知り、経路を一度歩いて確認しておくと確実です。更に大学から徒歩で帰宅する安全な経路もシミュレーションしておきましょう。

減災グッズの一例…

広島県 総務局広報課 HP

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/lab/topics/20220706/01/>



自然災害はいつどこで起こるかわかりません。上記 HP を参考に防災・減災グッズを備えましょう！リュックなどでコンパクトにまとめておくことが大切です。

また食品はローリングストック法で賞味期限が来たら食べて新品と入れ替えたり電池などは使用期限を点検します。

しかしリュックなどに減災グッズをまとめるのは現実として難しいかもしれません。そこでいざという時に役に立つ最低限のグッズを常に持ち歩くエマージェンシーボトルは如何でしょう？以下は筆者が準備した物で、100円ショップなどで調達しました。皆さんも自分なりのエマージェンシーボトルを工夫しましょう！



アルミブランケット

乾電池駆動 LED ライト

乾電池駆動ラジオ

非常灯付きホイッスル

軍手

携帯歯ブラシ

大学建屋内での地震防災対策

什器や機材の転倒・落下・移動による被害最小化

安全衛生管理の手引き 11 章 1 節 1 項に地震対策として「固定されていないものは、すべて動き出す」と考えて確実な固定を要求しています。什器、機材、化学薬品保管まで様々な地震対策を網羅して記載してありますので、一読してください。地震時の被害最小化に向けては、これらを教職員と相談しながら自分たちで具体化することが必要です。



地震で危険な什器

実験装置や薬品の危険防止

実験室や研究室では、重く壊れやすい機器、危険で有害な化学薬品やガスなどを使用しています。日頃からこういった機器、化学薬品やガスの整理・保管を徹底し、地震に備えて機器の固定、化学薬品の漏洩防止策や消火器の設置を行いましょう。地震発生時には搖れが収まってから可能な範囲で機器を停止し、火を消します。地震火災の対策は安全衛生管理の手引き 11 章 2 節に詳細を記載していますので、それを具体化して下さい。



地震で発生した実験室火災
(東北大)

避難場所

本学の建屋は耐震化されており地震発生時には避難できますが、在留可能な部屋と在留できない部屋を指定する予定です。地震発生時には今いる部屋を確認し、在留可能な部屋で避難してください。その移動を円滑に行うために階段や廊下に普段から物を置かないでください。

地震時のリスクを知って被害最小化

地震が発生したら、自分たちの周囲にどのようなリスクがあるか、それはどうしたら実際の被害にならないかを教職員や学生どうしで話してみましょう。研究室やゼミで緊急対応を確認し減災グッズを備えることも地震時の被害最小化に役立ちます。

正確な情報収集

福山市での情報収集

福山市は、避難勧告や避難指示の発令時などの避難が必要な場合に以下の方法で緊急情報を出します。複数の手段を用意して**自分で情報収集**しましょう。そして**自分の頭で考えて**、他人はともかく避難！

防災行政無線（サイレン、音声伝達）

市広報車や消防車などによる音声伝達

福山市メール配信サービスによる緊急メール

携帯電話事業者によるエリアメール

エフエムふくやまによるラジオ放送、

自治会連合会へのFAX

福山市メール配信サービス登録方法

- ① <https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/bosai/277344.html> アクセス
または右の QR コードを読み取り、空メールを送信。
- ② 返信された「登録案内メール」から登録画面へアクセスし、利用規約を確認の上、「同意する」を押す。
- ③ 配信を希望する地域を選択し、設定内容を確認の上、「登録」を押す。
- ④ 「メールサービス登録完了」の通知メールが届いたら登録完了。



福山市以外の情報入手先

広島県防災 Web : <http://www.bousai.pref.hiroshima.jp/hdis>

気象庁 : <https://www.jma.go.jp/jma/index.html>

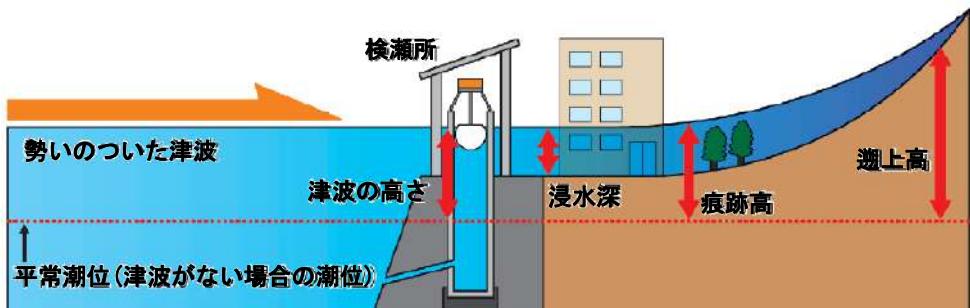
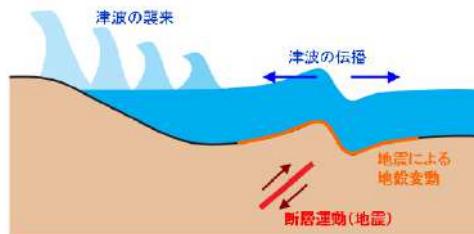
大地震の後の津波を知っている？

大地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。これに伴って海面が変動し、波長が数kmから数百kmの大きな波となって伝播するものが津波です。

通常の波浪は波長が短いため一つ一つの波による力は小さく沿岸で碎け散りますが、津波は大きな波長ゆえ巨大な水の壁となって長時間、力が加わるので陸上のものを破壊しながら陸地を駆け上がる（遡上する）のです。

津波の高さは海岸付近の地形により変化しますが、岬の先端やV字型の湾の奥では波が集中するので高くなります。また津波は反射を繰り返すことで何回も押し寄せて、複数の波が重なって著しく高くなることもあります。

気象庁が発表する「津波の予想される高さ」は、海岸線での平常潮位からの高さです。前述したとおり地形や反射の影響によりこの予想される高さより高い津波が押し寄せると考えるべきです。海岸から陸地へ駆け上がる津波の高さを「遡上高」と言いますが、これは「津波の予想される高さ」の1～4倍程度までになることが知られています。

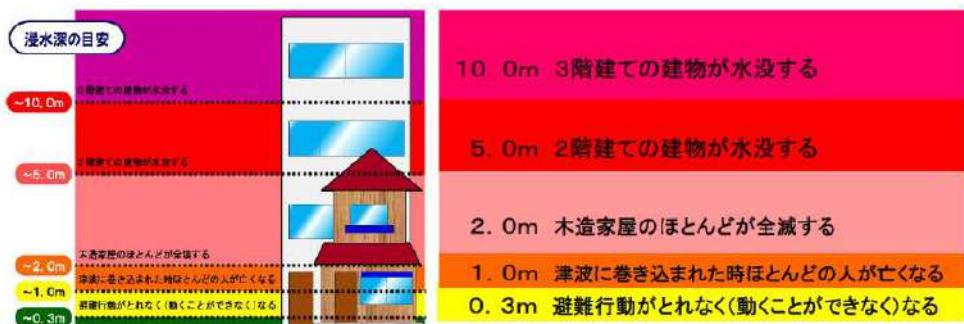


問題 気象庁から福山市へ津波警報「高いところで3m程度の津波が予想されます」が発令！
あなたの住んでいる所は津波到達範囲にあっても標高が5mあるからホッと安心。
本当にそれで良いのでしょうか？

解答 気象庁が3mの高さの津波を予想した場合、前述のとおり考えると陸地への遡上高は、その1～4倍になります。仮に中間の値の2倍を取っても、津波は6mまで達するとなるので、あなたの家は津波に飲まれる可能性が高いということになります。
津波警報などのとらえ方を正しくして、大地震を感じて津波警報が出たら、即避難が正解です！

津波警報、津波注意報

気象庁は、津波による災害が予想される場合、地震発生から3分を目安に以下の津波警報などを発表します。
津波注意報（高さ1m以下） **津波警報（1mから3m以下）** **大津波警報（3mから10m超）**



注意報？「30cmの波ぐらいの余裕」と軽く考えてはいけません。津波は波長が大きいので力が強く30cmの津波で人は足が取られて動けなくなるのです。

自分が住んでいるところの震度、津波浸水深等を市から配布されたハザードマップやホームページで確認しましょう。

津波が来るかも・・・まず避難！

湾から1.5km離れ、海拔50mにある本学にいる時なら、津波警報が出ても本学に避難していれば大丈夫です。しかし大学から松永駅や福山駅付近の自宅への帰宅では確かな情報で安全を確認する必要があります。

問題は、自宅にいるもしくは外出中に大地震が発生して津波警報が出た場合の避難です。ともかく今いる場所から海と反対方向のできるだけ高い所を行けるところまでを目指す勢いで避難します。次ページに例を示す市からのハザードマップには避難場所の指定がありますが、そこにとらわれる必要はありません。

東日本大震災では、約2万人が犠牲になり、その90%以上が津波によるもので、総浸水面積560km²は東京23区に匹敵します。このような危機的な状況では以下の避難の原則を知っているかどうかが生死を分けます。

避難の3原則

原則1 【想定にとらわれるな】

想定はあくまで「目安」であり、災害による被害の大きさを示していません。この程度なら今まで何もなかったから大丈夫と考えるのは禁物。西日本豪雨で被害に遭った多くの方が「まさか自分が・・」と言っています。

原則2 【最善を尽くせ】

周囲の状況を認識して、自分の頭で考えて最善の方法を選び、それを実行する。

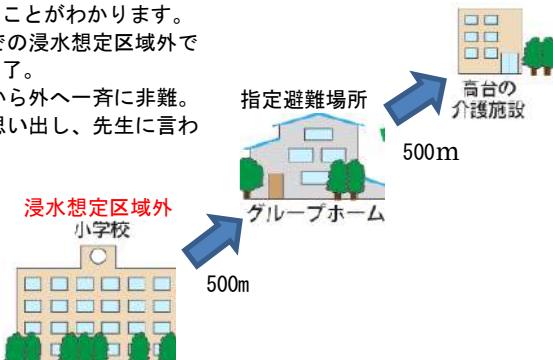
原則3 【まず自分が率先避難者になれ】

たとえ家族でもその人たちを心配して待ったり、救助に行くより「まず自分の命を守れ」という意味です。皆がこの原則に従えば皆助かるし、自分の命があつてこそ、周囲も助けることができるのです。

東日本大震災での避難の成功事例 釜石の奇跡

皆様、一度は耳にしたことがあるでしょう。岩手県釜石市では1,000人を越える尊い命が亡くなりました。しかし2,921人の小中学生が津波から逃れています。学校にいなかった5人が犠牲になりましたが、この小学生の99.8%の生存率が「釜石の奇跡」と言われています。一つの小学校での経緯を以下に示しますが、前述の原則のとおりの行動なら、奇跡でも何でもないことがわかります。

- ① 海岸から1km離れた鶴住居小学校は津波での浸水想定区域外で地震発生直後、全児童は校舎の3階に避難完了。
- ② しかし隣の釜石東中学校の生徒たちは校庭から外へ一斉に非難。
- ③ これを見た小学生たちも日頃の避難訓練を思い出し、先生に言われる前に中学生の後を追って避難開始。
- ④ 小中学生600名全員、指定避難場所のグループホームまで避難完了。
- ⑤ グループホームの裏の崖が崩れ始めるのを見た小中学生は危険を感じて、更に高台にある介護施設を目指して避難。
- ⑥ 介護施設まで全員が避難完了した30秒後グループホームは津波に飲み込まれ、介護施設の100m手前まで到達した。



東日本大震災での避難の失敗事例 避難場所で生存率がわずか5%

I市K総合支所は、この地域の指定避難場所で海拔6.5mにありました。ここでの津波での浸水想定は5.5mでしたので従来想定では、「ここに避難すれば安全」と思っていました。実際、地震発生直後から、ここには高齢者も含む地域の方々が続々と避難して来て、当時、少なくとも57人の住民や職員がいたとみられています。その後に無事を確認できたのは男性職員2人と小学4年生の男子児童の3名だけでした。

安全と想定していた市指定の避難場所で、57人中54人が死亡、生存率わずかに5%だったのです。実際に、高所への避難をうながすために、この避難場所に立ち寄った消防団員が、知り合いの方々に対して「もっと高い山の方に避難した方が良い。ここから逃げないの?」と声をかけたそうですが、返ってきた返事は、「妹も姪も皆ここに一緒にいるから・・・」とか「もうすぐ母がここに来るはずだから・・・」のことだったそうです。

前述の原則1に反して想定にとらわれて安全を信じたこと、原則2に反して最善を知った後もそれを尽くさなかつたこと、さらに原則3に反してまず自分が逃げずに家族を待ってしまったこと が招いた悲惨な95%の死亡率であるとわかります。ちなみにこの避難場所が津波に襲われたのは、大地震発生35分後でした。

東北地方三陸に語り伝わる「津波てんでんこ」

この「てんでんこ」は、地域安全、リスクコミュニケーションの分野で学術的議論が盛んです。興味のある方は検索してください。ここでは、前述3原則の基盤として以下の鉄則の意味があることだけを示します。

「要するに、凄まじいスピードと破壊力の塊である津波から逃れて助かるためには、薄情なようであっても、親でも子でも兄弟でも、人のことなどはかまわずに、てんでんぱらばらに、分、秒を争うようにして素早く、しかも急いで速く逃げなさい、これが一人でも多くの人が津波から身を守り、犠牲者を少なくする方法です。」

山下文男(2008) 津波てんでんこ——近代日本の津波史、新日本出版社 pp52-53

福山大学近辺と市中心のハザードマップ

福山市では、ハザードマップとして地震、津波、洪水と土砂災害の4種類をホームページで公開しています。また各家庭に小冊子が配布されているはずです。小冊子はどうせ使わないと安易に捨てるのは勿体ないです。

<https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/bosai/10792.html> からダウンロードできます。

ハザードマップを一言で説明すると「津波、洪水、土砂災害などの危険度が高い地域を色分けしている地図」と言えます。活用のポイントは次の4点です。

- ① 自分の住んでいる地域に影響のある川の存在を知り、津波の危険性が及ぶ範囲に入るかを把握する。
- ② 川や海の位置を知り、高い場所や避難場所を確認して避難の方向を把握する。
- ③ 橋の崩壊や土砂崩れにより通行不能になる可能性も考えて避難の道筋を複数把握する。
- ④ ハザードマップを知らないままでは済まされない事態は起こるものと認識して、上記で把握した避難について、日常から何となく「あーこの道か」程度でも良いので意識してみる。

2013年3月に広島県が公表した広島県津波浸水想定に基づき2014年作成した「津波ハザードマップ」を以下に松永エリア、次ページに福山市中心部を示します。

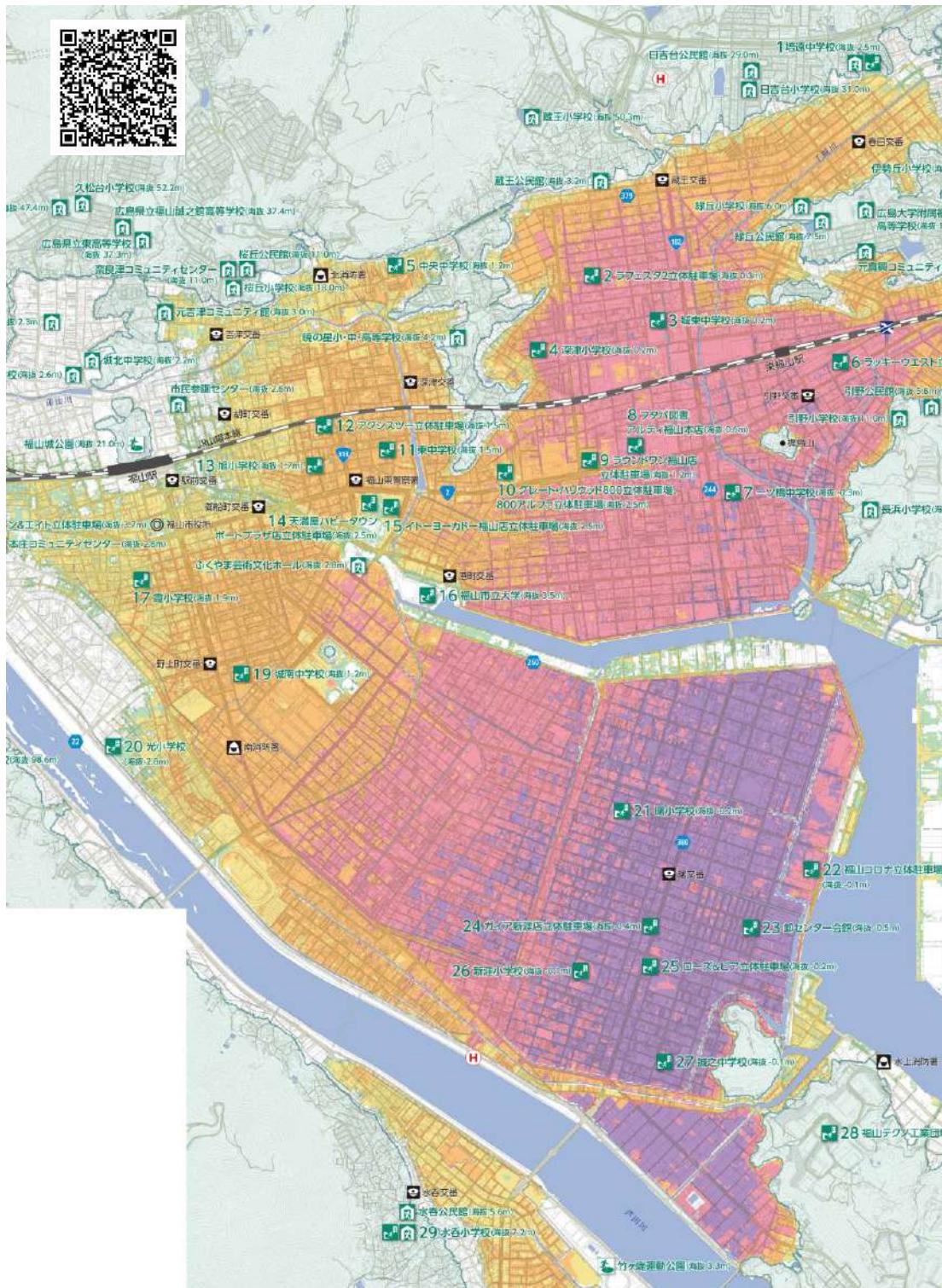
浸水深さの色分けは右に示すとおりです。

南海トラフ地震の被害想定までは反映していない様で、浸水深は浅くなっていることに注意をする必要があります。過度に心配するのも考え方ですが、福山市では南海トラフ地震で発生する津波により福山駅周辺で3mの浸水の可能性があると発表しています。次ページでは0.3~1m未満になっていますから、その分は浅めになっていると認識する方が安全でしょう。

またハザードマップには指定避難場所も記入してありますが、浸水想定区域内でしかも海拔が3m程度のところもあります。ここまで読んできた皆さんには、そこは避難に適していないと自分で考えることができるはずです。

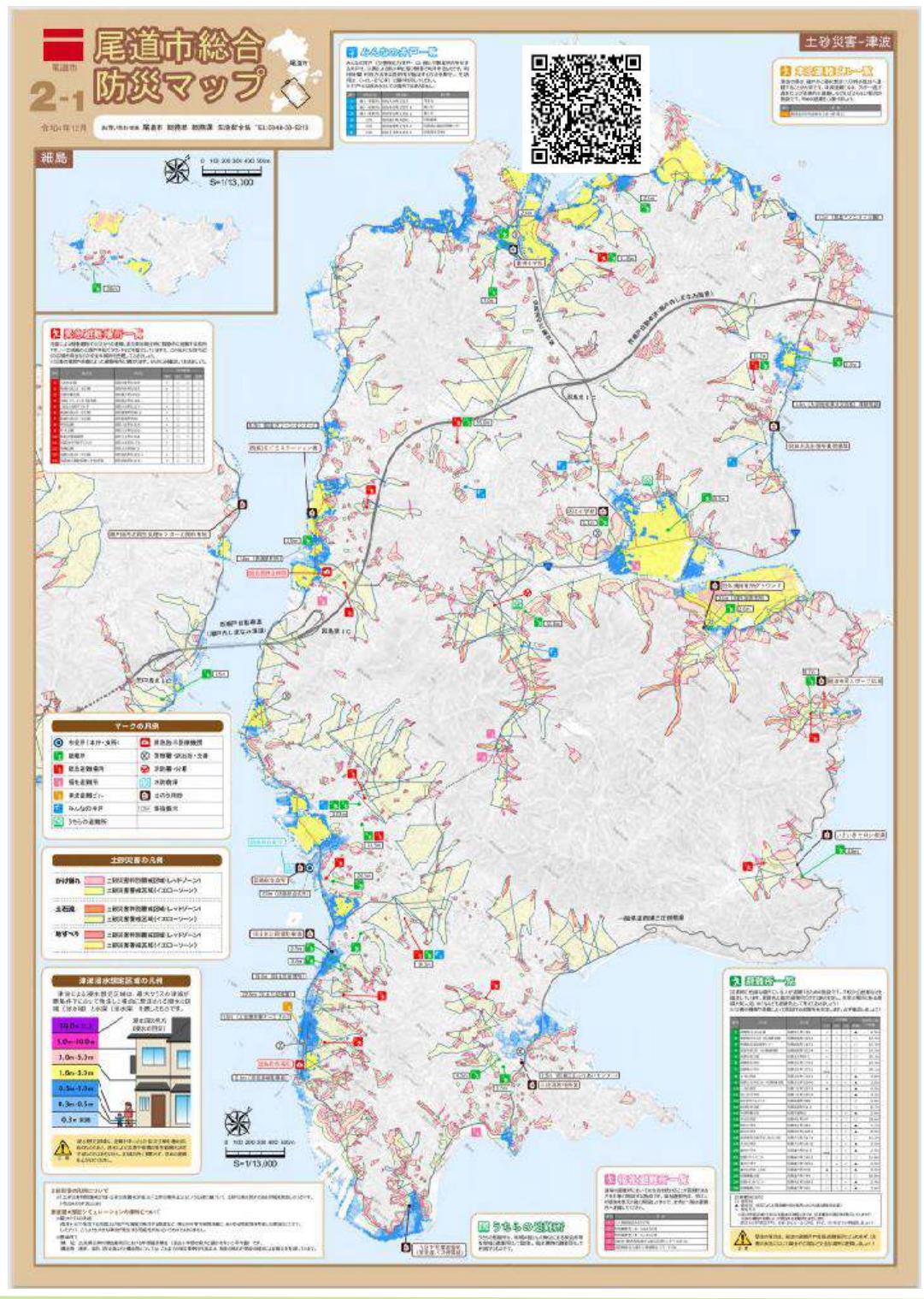
またハザードマップに記載はありませんが、東日本大震災で被害をもたらし阪神地区で現在対策を検討しているものに津波火災があります。津波が火災を拡大するというものです。





因島のハザードマップ

尾道市では、土砂災害、河川氾濫の浸水及び津波による被害の想定箇所と避難所を総合防災マップとして示しています。詳細はここから⇒ <https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/uploaded/attachment/40433.pdf>



集中豪雨と台風での対応

従来、広島は四国及び山陰との間にある山脈があるお陰で台風は直撃しないから安全と言わされてきましたが、2018年にはその間を縫うように広島上空を台風が通過しました。まさに従来の想定を越える自然現象を経験したわけです。また西日本豪雨では、芦田川が決壊する危険性が高まり、豪雨の後の川辺には大量の砂と信じられない大きさの倒木が流れ着いていたのも記憶に新しいでしょう。現在も山陽本線で広島に向かう途中の川や崖に豪雨の傷跡が未だ残っていて、自然の脅威を目の当たりにします。

そういった経験をしていますから、ここでは、一般情報をまとめておきます。

風水害時の3原則

① 気象情報には注意を傾ける ② 家や大学の設備の点検を早めに ③ 避難の準備を

- 1) 気象情報には、こまめに注意しながら、家や大学建屋の点検を行い窓ガラスなどは必要があれば補強します。また屋外で飛散するおそれのある物は、飛散防止処置や屋内へ搬入します。
- 2) 屋外にある高さがある標識などは強風や豪雨に備えて倒して固定化します。
- 3) 大木やブロック塀など倒壊のおそれがあるものには近づかない。
- 4) 浸水に備えて必要に応じて車やバイクは高いところへ移動させ、屋内浸水に備えて土嚢を準備します。
- 5) 土砂崩れのおそれがある地域もそうではない地域も、早めに避難するつもりで準備する。これまでの経験で「まだ避難しなくても大丈夫」と考えた時が避難の決断時です。

雨の強さと降り方（気象庁ホームページから）

1時間雨量（mm）	人の受けるイメージ	災害発生状況
10以上20未満	ザーザーと降る	この程度の雨でも長く続く時には注意が必要
20以上30未満	どしゃ降り	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる
30以上50未満	バケツをひっくり返したように降る	山崩れ、がけ崩れがおきやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。都市では下水管から雨水があふれる
50以上80未満	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	都市では地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすく多くの災害が発生する
80以上	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる	大規模災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要

台風

台風は規模・襲来時間を気象衛星データなどから予測することができるので、正確な情報をつかむことが重要です。台風の強さの階級は最大風速で分けられており、強い（33m/秒以上44m/秒未満）、非常に強い（44m/秒以上54m/秒未満）、猛烈な（54m/秒以上）となっています。

風速（毎秒）と被害（気象庁ホームページから）

平均風速	10m以上 15m未満	15m以上 20m未満	20m以上 25m未満	25m以上 30m未満	30m以上
人への影響	風に向かって歩きにくい傘をさせない	風に向かって歩けない。転倒する人もいる	しっかりと身体を確保しないと転倒する	立っていられない 屋外での行動は危険	
屋外の様子	取り付け不完 全な看板やトタン板が飛ぶ	ビニールハウスが倒れ始める	鋼製シャッターが壊れ始める	樹木が根こそぎ倒れ始める	屋根が飛び、木造住宅の全壊が始まる

大学にいる時に豪雨予測で大雨注意報や警報が発令されたら大学の指示に従った行動を行います。

自宅にいる時の対応

- は以下となります。
- ① 前述を参考に、テレビ、インターネット等で気象情報、交通機関や道路の情報収集に努める。
 - ② 無理して大学に出ようとせずに、本学からのメールやホームページによる連絡・情報を確認する。
 - ③ 休校に該当しない場合でも、自分で周囲の状況を見て外へ出ることが危険だと判断した場合は自宅で待機し、担任などを通して本学へ連絡する。安否確認システムには必ず対応する。
 - ④ 危険がなくなり、交通機関が復旧してもメールやホームページで状況を確認してから大学へ出る。

南海トラフ地震に関する注意情報、警戒宣言

南海トラフ地震に関する観測データの中で地震発生関連データに異常が表れると、その程度に応じて気象庁が「南海トラフ地震に関する情報」を発表します。

わずかな異常時は「調査情報」、さらに異常データが増えると黄色信号に相当する「注意情報」を発表して様々な対応が始まります。さらに専門家による地震防災対策強化地域判定会が「南海トラフ地震の発生の可能性が高い」と判断した場合は、内閣総理大臣が「警戒宣言」を発令します。この警戒宣言が発令されると、南海トラフ地震被害が想定される地域では行政機関による様々な準備行動が開始され、交通機関や各種施設では通常の活動が停止となる対応が予定されて日常生活に影響が出ます。

福山大学では、注意情報が発表された時から対応を開始します。天気予報で「警報」が発令された時と同じく、講義等はすべて中止し、研究室や実験室などで災害防止措置を速やかに実行して学生も教職員も非常時要員以外、全員帰宅となります。

緊急地震速報

緊急地震速報は、震源の近くで地震の発生をキャッチして、少し離れたところに地震の揺れが伝わる前に警報を出すシステムです。NHKのテレビ放送や携帯電話、専用端末などを通じて広く一般に伝えられ、これまでに皆さんも受信したことがあるでしょう。福山大学学内でも一斉放送設備を通じて緊急放送を流します。

しかしこの緊急地震速報による警報が出てから実際に大きく揺れるまでの時間は長くとも数十秒と短く、場合によっては地震による強い揺れが発生してから警報が遅れて出ることもあります。逆に警報が出ても強い揺れが発生しないこともあります。ともかく警報を受けたら、すぐに慌てずに自分の身を守る行動をとってください。建屋内では、トイレやエレベータから出たり、室内の壁や本棚から離れて丈夫な机の下に入る。外ではブロック塀やビルの近くから離れる、地下街から外に出るといった安全対策が考えられます。こういったことは普段から「こうしよう」と考えてみることの積み重ねが意外に大切です。

緊急地震速報について詳細を気象庁のホームページで見ておくことも重要な安全対策となりますし、テレビでの防災に関する番組もたまには観て考えて、何か実践してみるとそれが役に立つでしょう。

避難のタイミング

避難の判断によって、生死が分かれることは覚えてください。避難するか、しないか、どこに避難するかは人に頼らず、スマホやテレビなどから得る情報や自分の目と耳で確かめた情報を基に自分の頭で考えて判断します。自宅が安全であると確認できた時は在宅避難に努めることも大事です。大学は避難所機能がありますので在留可能ですが、地域住民の避難所にもなります。

自然災害発生時のコミュニケーション

自然災害発生時は、家族、友人、大学と連絡をとる方法は大変重要です。携帯電話等は非常につながりにくくなります。その場合、災害伝言ダイヤル 171 や携帯電話の災害伝言板サービスなどを活用します。大学には、安否確認システム（1ページ）で必ず状況を伝えてください。

● 災害用伝言ダイヤル 171

伝言録音：「171」にダイヤル⇒「1」Push⇒被災地の方は自宅電話番号入力、被災地以外の方は被災地の方の自宅電話番号を市外局番から入力⇒「1」「#」Push⇒伝言 30 秒録音⇒「9」「#」Push 終了

伝言再生：「171」にダイヤル⇒「2」Push⇒被災地の方は自宅電話番号入力、被災地以外の方は被災地の方の自宅電話番号を市外局番から入力⇒「1」「#」Push⇒再生開始
伝言保存期間は 48 時間です。毎月 1 日、15 日などに体験できます。

● 災害用伝言板（携帯電話各社）

携帯電話各社による文字データ通信による安否情報確認サービスです。災害になると「災害用伝言版」が各社のポータルサイトのトップメニューに出来ますので、そこへアクセスして伝言板で安否確認の連絡ができます。詳細は携帯各社のホームページで確認してください。毎月 1 日、15 日などに体験ができます。

地震時の NG 行動

- ①ガス引火の危険があるので火を付けない。
- ②火災・爆発の危険があるのでブレーカーを上げて通電しない。電気スイッチに触らない。
- ③回線がパンクするので不要不急の電話を使わない。
- ④ケガの危険があるので部屋を裸足で歩かない。
- ⑤救出活動は一人では危険、複数で行う。
- ⑥避難に車を使用しない。

緊急時の学内連絡先

福山大学 守衛室 084-936-2115

福山大学 学生課 084-936-1671(直通)

福山大学 総務部庶務課

084-936-2112 +

(内線: 2115, 2903, 2905)

福山市危機管理防災課 084-928-1228

消防 (119)

福山市消防局総務課 084-928-1191

福山市 西消防署 084-934-1355

警察 (110)

広島県警察本部 082-228-0110

福山西警察署 084-933-0110

神原病院 (救急) 084-951-1007

西福山病院 (救急) 084-933-2110

福山市民病院 (総合) 084-941-5151

福山大学 自然災害緊急訓練

年 2 回程度、自然災害発生を想定した安否確認訓練を実施します。学内外で教職員や学生など全員参加です。

